

外国語教育メディア学会50周年記念全国研究大会
全体シンポジウム
「若手研究者が語るメディアと外国語教育の新たな共生の姿」



**言語教育における社会的存在感
に基づいたソーシャルソフトウェア
の開発と評価**

金沢大学 大学教育開発・支援センター 准教授
山田政寛

山田政寛(やまだ まさのり)  金沢大学
KANAZAWA

- 金沢大学 大学教育開発・支援センター
准教授、Ph.D
– 教育工学、**協調学習**環境(CSCL)の研究をしています
- 前任の東京大学ベネッセ先端教育技術学講座
(BEAT)で外国語学習環境の構築に関わってきま
した

2

 金沢大学
KANAZAWA

**なりきり
English!**

企業内人材育成
・新日鉄株式会社との共同研究

「あなたが今、または将来接する英語使用文脈を教材に」

モバイル向けの英語リスニング教材



CONOMi+

協調フィルタリングを使用した英語学習環境

- 学習者の**中程度**の興味・関心に合わせて英語ニュースを推薦する
- 学習者のレベルにあわせて単語の意味を表示
- コメント機能など



 金沢大学
KANAZAWA

今日のお話は・・・

**ソーシャルメディアを使った
言語学習環境とその理論的背景**

いろんなソーシャルソフトウェア  金沢大学
KANAZAWA

(CMC:Computer-Mediated Communication)



2010年7月30日

東京大学大学院情報学環 ベネッセ先端教育技術学講座
Benesse department of Educational Advanced Technology

Home About Projects Blog Seminar Beating Members Resources

【カスリシリーズ】高校生と大学生・社会人各ソーシャルメディアで接続する学習支援プログラム

2010年7月30日

【報道関係者向け】
国立大学法人東京大学
株式会社ベネッセコーポレーション

東京大学とベネッセコーポレーション、国立大学と大学生・社会人各ソーシャルメディアで接続する学習支援プログラムについて共同研究を開始

国立大学法人東京大学と株式会社ベネッセコーポレーションは2010年8月より高校生と大学生・社会人各ソーシャルメディアをつなぎ、両校生の学習を支援するための共同研究を開始いたします。

<http://www.beatiii.jp/>

教育におけるソーシャルソフトウェア (CSCL)

金沢大学 KANAZAWA

- CMCやインタラクティブ(相互関係性のある)メディアは学習者の学習に対するモチベーションを上げる効果(Furstenberg,1997; Warschauer, 1997)
- ビデオカンファレンスによって言語学習者は学習中の第二言語を話す自信がつか、臨場感が高いなど、情意面の支援に有効である(McAndrew et al. 1996)
- CMCを介したコミュニケーションでは相手の存在感を学習者が受容することで、学習満足度が向上する効果(Gunawardena et al. 1997; 佐藤ら, 2005)

CMC → 情意面

なぜソーシャルソフトウェアが有効なのだろう?

金沢大学 KANAZAWA

楽しい!!

気軽でいい

学生の目がキラキラしている!

みんなのことを知ることが出来る

みんなでがんばってる感じがする

1つの理論的枠組

金沢大学 KANAZAWA

社会的存在感

(Social Presence)

「使用しているコミュニケーションツールにおいて、コミュニケーション中に感じる相手の存在感の程度」(Short et al, 1976)

しかし、CSCLが広まる中、社会的存在感理論が再解釈・再構成されてきている

代表的な研究者	重視する点	測定の指針	定義
Shortら	メディアの特性	受容するもの	他者との相互作用において(受容される)他者の顕現性(Salience)の程度、またその(相互作用の)結果として起こる対人関係の顕現性の程度(Short et al, 1976)
Gunawardena, Tuら	相互作用の状態と、それに対する学習者の認識		媒介しているコミュニケーションにおいて相手を「現実」に目の前にいる」と感じられる程度(Gunawardena and Zittle, 1997)
Garrisonら	学習者の能力・行為	表現するもの	使用しているコミュニケーション媒体(非同期が前提)を通じて、探求の共同体(Community of Inquiry)において実際にその場にいる人間のように社会的に、且つ感情的に自己投影できる能力(Garrison et al, 2000)

山田・北村 (2010)

社会的存在感の効果 (Yamada, 2009)

金沢大学 KANAZAWA

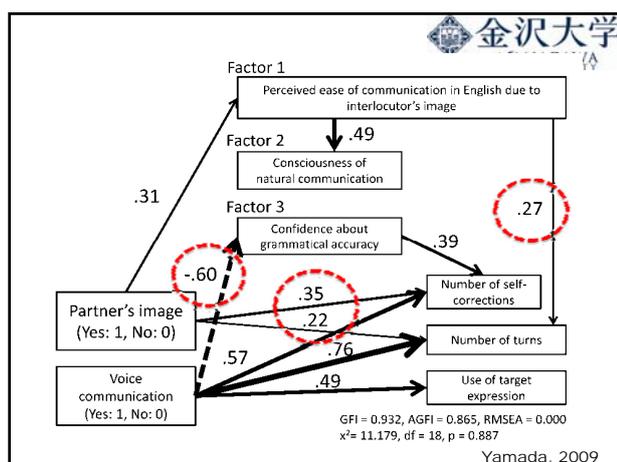
社会的存在感はどのようにアウトプットに影響するのだろうか?

映像有無×音声有無(2×2)で比較(実験室)
(ビデオカンファレンス、オーディオカンファレンス、画像つきテキストチャット、ブレインテキストチャット)

・対応なしの実験デザイン

タスク: 意思決定課題
・英語で15分間するよう指示
・4つの候補者から1人選ぶ

データ収集
・質問紙とビデオ撮影



	存在感	対面への近さ	文法正確性	定型表現 利用数	発言数
相手の動画	○	○	△	○	
自分の動画		○		○	
音声(ビデオ カンファレン ス)	○			○	○
テキスト チャット			○		
対面	○	—			○
定型表現 表示				○	
コミュニケー ション中の表 現表示				○	

Yamada (2008) Doctoral Dissertation

社会的存在感的これから

情報技術はハード面も含めて、
どんどん発展していく

教育・学習観も今後も変わって
いく(?)

学校外・授業外の学び

↓

実践と**実験室**における
評価を繰り返し、理論的
発展が必要となる

金沢大学 KANAZAWA

もしよろしければ

BEATセミナー
「外国語学習のソーシャルイノベーション」
<http://www.beatiii.jp/>
2010年9月4日(土曜日) 14時開始
東京大学 本郷キャンパス 情報学環・福武ホール
地下2階 福武ラーニングシアター

講演者: 加藤智久氏(株式会社レアジョブ 代表取締役CEO)
喜洋洋氏(ランゲート株式会社 代表取締役)

パネルディスカッション
司会: 山内祐平(東京大学 大学院情報学環)
パネラー: 加藤智久氏、喜洋洋氏、山田政寛(金沢大学)

金沢大学 KANAZAWA

ご静聴、ありがとう
ございました

mark@mark-lab.net
<http://mark-lab.net>

金沢大学 KANAZAWA

LETへの期待

金沢大学 KANAZAWA

共同研究推進 ワークショップ

LETへの期待

- 共同研究推進ワークショップ
 - さまざまな**研究ドメイン**の人が集まる場の設定
 - **企業**の人も参加する場(遠慮することはない)
 - 1つのものの見方に固執しないこと
 - **心理学**、他の**教科研究**、**学習科学**など幅広い知識が必要
 - 基本的な研究手法・統計のお作法
 - **産学連携**と企業が求めるコト
 - 研究マネジメント(これ、かなり重要)
 - 研究者側でできないならば、企業の方に持ってもらっても良いと思う

研究能力養成 ワークショップ

LETへの期待

- 研究能力養成ワークショップ(研修会)
 - 徹底した「**理論**」のお勉強
 - 言語教育に**焦点化されていないもの**
 - 先行研究レビュー
 - 統計のお勉強
 - 実験デザインのお勉強
 - 論文執筆のお勉強
 - 特に仮説、目的、実験デザイン、結果の**一貫性**